

地域の遊休農地を、人々が集まる憩いの場所へ――

ボランティアでまちの景観を守る「東町景観クラブ」。代表を務める提坂さんは、活動の一環として、遊休農地（耕作されない農地）の再生に携わっています。農地を保全し、景観を守ることで、地域に笑顔が生まれます。

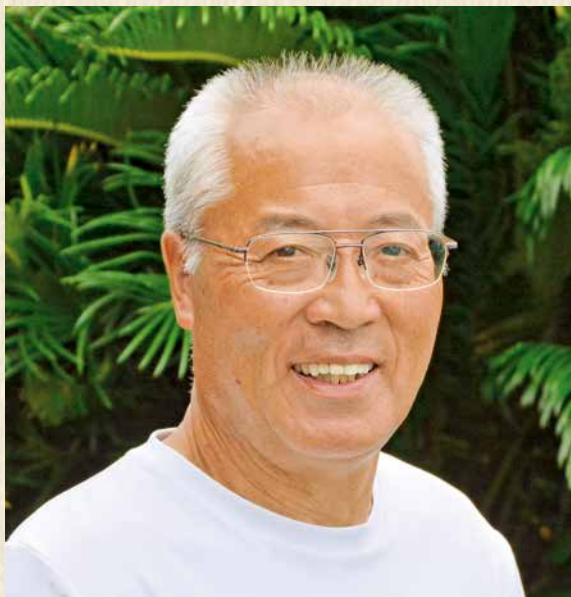
【人の手で守る自慢の景観】  
本業の農業の傍ら、東町景観クラブで活躍する提坂さん。そのやりがいを語ります。



「当クラブでは、大津谷川の桜堤防や、栃山川ののり面を、10人の会員が分担して除草作業を行っています。暑い日の作業は特に大変ですが、地域の皆さんからの感謝の声を聞くと、やりがいを感じます。農地と同じで、人の手が入らないと、すぐに雑草が生い茂ります。地域自慢の景観も、管理無くして、その姿を維持することはできません。私たちの活動により、未来に繋ぐ事ができればうれしいです」

【遊休農地再生への挑戦】

農業者である提坂さんは、ある時、市農業委員会から遊休農地の再生を相談されました。東町景観クラブで引き受けたものの、予想外の苦労があったと話します。



また地域の住民として、この地を見過ごすわけにはいきませんでした。そこで、手間を掛けず、地域のみなさんが楽しめる四季の花を育てることにしました。連日作業の末、整地した畑にレンゲの種をま

東町景観クラブ 代表  
さげさか こういち  
提坂幸一さん(東町)

「相談を受けた農地は、さまざまな雑草が2mほどに成長し、鬱蒼とした荒地と化していました。これでは、景観が損なわれるだけではなく、害虫が発生し、近隣に悪影響を及ぼします。農業者として、

きました。再生に向けた取り組みの第一歩。少しでも花が咲けばと思ったけれど、結果は全滅でした。一度荒れた農地の再生は、予想より難しいことを痛感しました。その後、半年間の土壌改良を施し、再

挑戦でまいたコスモスは、畑一面に花を咲かせました。その光景を目にした方々から、感謝の声を頂きました。やはり、私たちのやりがいは、地域の皆さんの声なんです」

【農地はみんなの宝物】

「再生した畑では、春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモスが花開くように種をまきます。四季折々の花が咲くことで、地域の皆さんにも喜んでいただいています。現在、東町内には8カ所の遊休農地があります。今後の目標は、それらの再生をすること。先祖が汗水流して守ってきた農地は、私にとって宝物です。それは自分の土地だけではなく、よそも同じ。だからこそ、荒れた農地は見るに堪えませぬ。一方で、担い手不足などにより、増加傾向にあることも事実です。私にできることは、このような農地に手を入れ、維持すること。さらに、地域の賑わいを作ることができれば、うれしいですね」  
農地を守り、地域に笑顔を生む提坂さんの挑戦は、これからも続きます。



この夏、大輪のひまわりが咲いた、かつての遊休農地

Shimadajin File #127

島田  
Story 人田